

2010年11月4日

No.115

又市征治 国政だより

又市征治事務所

発行責任者 東 篤

富山市下新町 8-16

TEL 076-441-0800

HP: www.s-mataichi.com

森林・林業と労働者を育て、地球と地域を守ろう — 又市副党首が南丹の山林を視察 —

又市副党首は10月31～11月1日、党を代表して森林・林業・雇用と過疎対策視察のため京都府南丹市を訪れ、同地の日吉町森林組合で、組合員の組織化などすぐれた経営について説明を聞き、最新の間伐現場を見学しました。同行は吉泉衆院議員（党農水部会長）、支援くださった森林労連・林野労組の川田委員長ら、党京都府連合の奥田代表ら。

また市の日吉支所（合併前の日吉町役場）を訪れ佐々木市長らから、集落ごとの高齢化の現況や産業・林業などを聴取。

又市副党首は「戦後の無計画な植林の後、工業製品輸出のため国産農林業をつぶしてきた自民党により、過疎化・「限界集落」で間伐もされず放置され山は崩壊しています。」と呼びかけ。歴代大臣に林野事業の継続と雇用・過疎・集落対策を求めている活動を紹介。

森林組合職員や参加者から「政策のおかげで村外から転職や新卒の就労も増えている。不在地主等も、森林経営に利益を感じ、組合に参加してほしい。」「間伐材を作業道の造成や燃料チップに加工するなどゼロ排出に取り組んでいる。」「鹿の食害がひどい。鹿肉生産もやっているがペット用飼料などに活用を。」「名産の丹波マツタケがマツクイムシ被害で、駆除も効果が薄い。」など声が寄せられました。



日吉町森林組合の皆さんなどと話を
する又市副党首



又市副党首は「地球環境の面からも森林の再生が急務。それには適正な中間伐採、その収益確保も不可欠です。政府は雇用創出と結びつけて林業労働者を育成し、10年後木材自給率 5 割をめざすべきだ。」と激励し、党の取り組みを約束しました。

最新の間伐現場を見学する
又市副党首